

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2020年9月10日(10.09.2020)



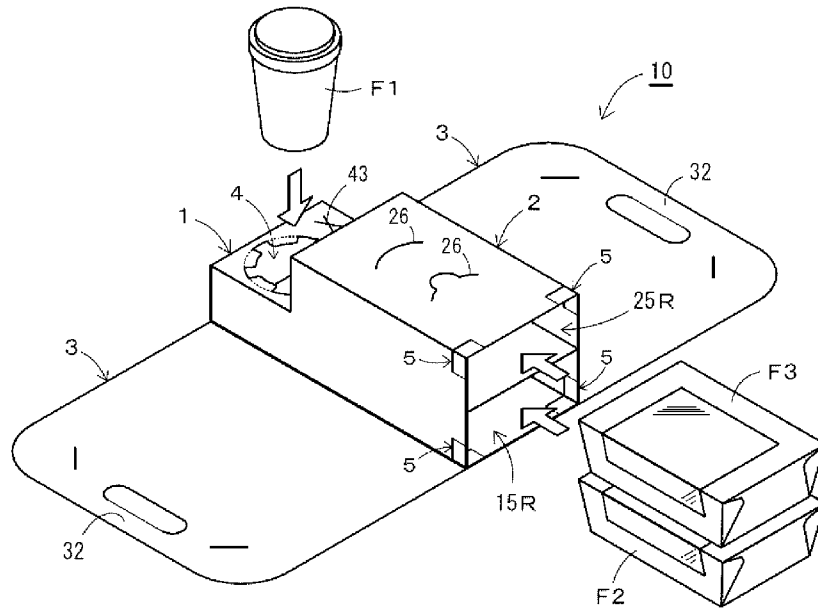
(10) 国際公開番号

WO 2020/179718 A1

- (51) 国際特許分類:
B65D 67/02 (2006.01) B65D 5/50 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2020/008554
- (22) 国際出願日: 2020年2月28日(28.02.2020)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2019-040073 2019年3月5日(05.03.2019) JP
- (71) 出願人: 有限会社あまから (AMAKARA CO.,LTD.) [JP/JP]; 〒9188023 福井県福井市西谷3丁目1303番地 Fukui (JP).
- (72) 発明者: 野坂昌之 (NOSAKA Masayuki); 〒9188023 福井県福井市西谷3丁目1303番地 Fukui (JP).
- (74) 代理人: 特許業務法人フェニックス特許事務所 (PHOENIX INTERNATIONAL PATENT FIRM); 〒9100859 福井県福井市日之出5丁目4番7号 Fukui (JP).
- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ,

(54) Title: MULTI-STAGE PACKAGING CONTAINER

(54) 発明の名称: 多段式包装容器



(57) Abstract: [Problem] To provide an inexpensive multi-stage packaging container 10 which has a simple structure and which is capable of storing and transporting a vertically-placed food container F1 and a plurality of horizontally-placed food containers F2, F3 on multiple stages in a stable and space-saving manner. [Solution] The present invention is provided with: a first storage part 1 in the shape of a tube including a front opening 15F and a back opening 15R in the front-to-back direction; a second storage part 2 in the shape of a tube provided above the first storage part 1 and including a front opening 25F and a back opening 25R in the front-to-back direction; and a pair of wing piece parts 3, 3 formed on the left and right and each having a handle 32 formed on the leading-end side. The front opening 15F of the first storage part 1 protrudes further forward than the front opening 25F of the second storage part 2, and in this protruding section, a holding hole 4 in



WO 2020/179718 A1

NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT,
QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL,
ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG,
US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類 :

- 国際調査報告 (条約第21条(3))

which the food container F1 can be inserted and held is provided. Locking parts 5 for preventing the food containers F2, F3 placed in the first storage part 1 and the second storage part 2 from slipping out and falling are provided in the back opening 15R of the first storage part 1 and the back opening 25R of the second storage part 2.

- (57) 要約 : 【課題】縦置き型の食品容器 F 1 のほか、平置き型の食品容器 F 2、F 3 を複数、多段に安定かつコンパクトに収容し運搬することができる構造簡素で安価な多段式包装容器 10 を提供すること。
【解決手段】前後方向に前側開口部 1 5 F 及び後側開口部 1 5 R を有する筒状の第一収容部 1 と、この第一収容部 1 上に設けられ、前後方向に前側開口部 2 5 F 及び後側開口部 2 5 R を有する筒状の第二収容部 2 と、先端側に持ち手 3 2 が形成された左右一対の翼片部 3・3 とを備え、第一収容部 1 の前側開口部 1 5 F が第二収容部 2 の前側開口部 2 5 F よりも前方へ突出し、その突出部分に食品容器 F 1 を挿入保持可能な保持孔 4 を設け、第一収容部 1 の後側開口部 1 5 R 及び第二収容部 2 の後側開口部 2 5 R に、第一収容部 1 及び第二収容部 2 内に収容した食品容器 F 2、F 3 の抜け落ちを防ぐ抜止部 5 を設けた。

明 細 書

発明の名称：多段式包装容器

技術分野

[0001] 本発明は、多段式包装容器、より詳しくは、複数の食品容器を多段に収容し運搬することができる多段式包装容器に関する。

背景技術

[0002] 従来、複数の食品容器を保持して運搬するための手提げ包装容器として、例えば下記特許文献1に記載のものが知られている。この包装容器は、飲料を収容した紙コップ等の飲料容器を保持する複数の保持孔を備えた容器保持部と、この容器保持部を支持して手提げするための本体部とから構成されている。

[0003] しかしながら、この包装容器は、紙コップ等の飲料容器を単に横並び状態で保持するものに過ぎず、これら紙コップ等の縦置き型の食品容器のほか、例えば弁当箱等の平置き型の食品容器を同時に保持し運搬するものではなかった。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献1：実開平3-60266号公報（第5図）

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0005] 本発明は、従来の包装容器に上記のような難点があったことに鑑みて為されたもので、紙コップ等の縦置き型の食品容器のほか、例えば弁当箱等の平置き型の食品容器を複数、多段に安定かつコンパクトに収容し運搬することができる構造簡素で安価な多段式包装容器を提供することを課題とする。

課題を解決するための手段

[0006] 本発明は、複数の食品容器を収容し運搬するための多段式包装容器であって、

矩形状の底板部と、前記底板部の相対向する左右側縁に折り線を介して設けられた左右一对の第一側壁部と、前記各第一側壁部の上縁間に折り線を介して架け渡された矩形状の第一天板部とから成り、前記底板部の前後方向に前側開口部及び後側開口部を有する筒状の第一收容部と、

前記第一收容部上に設けられ、前記第一天板部と、前記第一天板部に折り線を介して設けられた左右一对の第二側壁部と、前記各第二側壁部の上縁間に折り線を介して架け渡された矩形状の第二天板部とから成り、前記底板部の前後方向に前側開口部及び後側開口部を有する筒状の第二收容部と、

前記第一收容部の左右側縁に折り線を介して設けられ、先端側に持ち手が形成された左右一对の翼片部と、を備え、

前記第一收容部の前側開口部が前記第二收容部の前側開口部よりも前方へ突出し、前記第一收容部における前記第一天板部の突出部分に、食品容器を挿入保持可能な保持孔が設けられ、前記第一收容部の後側開口部及び前記第二收容部の後側開口部に、前記第一收容部及び前記第二收容部内にそれぞれ收容した他の食品容器の抜け落ちを防ぐ抜止部が設けられていることを特徴としている。

[0007] また、本発明は、前記抜止部が、前記第一收容部の後側開口部において、前記底板部及び前記第一側壁部に前記折り線を跨いで設けられた第一切込みにより形成された第一逆折片と、前記第二收容部の後側開口部において、前記第二天板部及び前記第二側壁部に前記折り線を跨いで設けられた第二切込みにより形成された第二逆折片と、から構成されており、

前記第一逆折片を前記第一收容部の後側開口部の内側へ逆折りすることにより前記第一收容部内に收容した食品容器の抜け落ちを防ぎ、前記第二逆折片を前記第二收容部の後側開口部の内側へ逆折りすることにより前記第二收容部内に收容した食品容器の抜け落ちを防ぐことを特徴としている。

[0008] また、本発明は、前記抜止部が、前記底板部の後端縁に折り線を介して設けられた舌片と、前記第二天板部に設けられ、前記舌片の先端側を差込み可能な差込切れ目と、から構成されており、

前記舌片の先端側を前記差込切れ目に差し込むことにより前記第一収容部及び前記第二収容部内にそれぞれ収容した食品容器の抜け落ちを防ぐことを特徴としている。

発明の効果

[0009] 本発明に係る多段式包装容器によれば、上下に形成された第一収容部及び第二収容部内にそれぞれ平置き型の食品容器を収容することができ、さらに下段の第一収容部を上段の第二収容部よりも前方へ突出させ、その突出部分に設けた保持孔により縦置き型の食品容器を保持することができるので、紙コップ等の縦置き型の食品容器のみならず、弁当箱等の平置き型の食品容器も同時に複数個、安定かつコンパクトに保持し運搬することができる。

[0010] しかも、第一収容部の突出部分に設けた保持孔で保持した食品容器によって、第一収容部及び第二収容部内にそれぞれ収容した食品容器が前方へ抜け落ちるのを防ぐことができ、第一収容部及び第二収容部の後側開口部に設けた抜止部によって、各食品容器が後方へ抜け落ちるのを防ぐことができる。したがって、第一収容部及び第二収容部の前後の開口部を、例えば複数のフラップ等で封止する必要がなく、構造簡素で安価な包装容器を提供することができる。

図面の簡単な説明

- [0011] [図1]本実施形態の多段式包装容器を斜め前方から見た斜視図である。
[図2]本実施形態の多段式包装容器を斜め後方から見た斜視図である。
[図3]本実施形態の多段式包装容器の第一収容部及び第二収容部の展開図である。
[図4]本実施形態の多段式包装容器の翼片部の展開図である。
[図5]本実施形態の多段式包装容器の組立説明図である。
[図6]本実施形態の多段式包装容器に複数の食品容器を収容する手順を説明する斜視図である。
[図7]本実施形態の多段式包装容器に複数の食品容器を収容する手順を説明する斜視図である。

[図8]本実施形態の多段式包装容器に複数の食品容器を収容する手順を説明する斜視図である。

[図9]本発明に係る多段式包装容器の他の実施形態を斜め後方から見た斜視図である。

[図10]本発明に係る多段式包装容器の他の実施形態の抜止部の操作手順を説明する斜視図である。

発明を実施するための形態

[0012] 図1及び図2に示すように、本実施形態の多段式包装容器10は、食品容器を収容可能な筒状の第一収容部1と、この第一収容部1上に設けられ、他の食品容器を収容可能な筒状の第二収容部2と、第一収容部1の左右両側に設けられ、これら第一収容部1及び第二収容部2を手提げするための左右一対の翼片部3・3とから構成されている。

[0013] 第一収容部1は、矩形状の底板部11と、底板部11の相対向する左右側縁に折り線を介して設けられた左右一対の第一側壁部12・12と、各第一側壁部12の上縁間に折り線を介して架け渡された矩形状の第一天板部13とから角筒形状に形成されており、底板部11の前後方向に前側開口部15F及び後側開口部15Rが形成されている。

[0014] 第二収容部2は、上記第一収容部1の第一天板部13と、第一天板部13の相対向する左右側縁に折り線を介して設けられた左右一対の第二側壁部22・22と、各第二側壁部22の上縁間に折り線を介して架け渡された矩形状の第二天板部23とから角筒形状に形成されており、底板部11の前後方向に前側開口部25F及び後側開口部25Rが形成されている。この第二収容部2の第二天板部23には、例えばスプーン、フォーク等の飲食用具を差込み可能な複数の保持切れ目26が設けられている。

[0015] 図1に示すように、第一収容部1の前側開口部15Fは、第二収容部2の前側開口部25Fよりも前方へ突出している。即ち、第一収容部1の前後方向の奥行寸法L1が、第二収容部2の前後方向の奥行寸法L2よりも大きくされている。そして、この第一収容部1における第一天板部13の突出部分

に、紙コップ等の縦置き型の食品容器を挿入保持可能な保持孔4が設けられている。保持孔4の孔縁部には、複数の突片41がミシン目42を介して設けられており、保持孔4内に挿入した食品容器を安定に保持する。また、第一天板部13の突出部分には、保持孔4のほか、例えばストロー、フォーク等の飲食用具やお手拭等の付属品を差込み可能なX字形状の複数の保持切れ目43が設けられている。

[0016] なお、本実施形態では、第一収容部1の後側開口部15Rの位置と第二収容部2の後側開口部25Rの位置とを揃えているが、例えば、収容する食品容器の種類、形状、大きさ等に応じて、第一収容部1の後側開口部15Rを第二収容部2の後側開口部25Rよりも後方へ突出させたり、第二収容部2の後側開口部25Rを第一収容部1の後側開口部15Rよりも後方へ突出させたりしてもよい。

[0017] 図2に示すように、第一収容部1の後側開口部15R及び第二収容部2の後側開口部25Rには、これら第一収容部1及び第二収容部2内にそれぞれ収容した食品容器の抜け落ちを防ぐための抜止部5が設けられている。

[0018] 本実施形態の抜止部5は、第一収容部1の後側開口部15Rにおいては、底板部11及び第一側壁部12に、これら底板部11と第一側壁部12との間の折り線を跨いで設けられた第一切込み51により形成された第一逆折片52から構成されており、第二収容部2の後側開口部25Rにおいては、第二天板部23及び第二側壁部22に、これら第二天板部23と第二側壁部22との間の折り線を跨いで設けられた第二切込み53により形成された第二逆折片54から構成されている。

[0019] 翼片部3は、第一収容部1の左右両側の下部に折り線を介して設けられており、各先端側に持ち手32が形成されている。本実施形態では、各翼片部3の先端側に切込み33を設けることにより長円形状の折曲片34を形成し、この折曲片34を折り曲げることにより翼片部3の先端側に長円形状の開口部を設け、この開口部と翼片部3の先端縁との間に持ち手32を形成している。また、各翼片部3には、例えばリボン等の装飾品を取り付けるための

複数の切れ目 35 が設けられている。

[0020] 本実施形態の多段式包装容器 10 は、図 3～図 5 に示すように、板紙を所定形状に打抜き加工して得た二枚のブランクシート B1、B2 を折曲げ加工することにより組み立てられている。

[0021] 多段式包装容器 10 の第一收容部 1 及び第二收容部 2 は、図 3 に示す第一ブランクシート B1 を折曲げ加工して組み立てられている。第一ブランクシート B1 は、ほぼ中央に矩形状の底板部 11 を備え、この底板部 11 の相対向する左右側縁に折り線 111 を介して左右一对の第一側壁部 12・12 が連続し、右側の第一側壁部 12 の右側縁に折り線 121 を介して第一天板部 13 が連続し、第一天板部 13 の右側縁に折り線 131 を介して第一糊代部 14 が連続している。他方、左側の第一側壁部 12 の左側には第二側壁部 22 が連続し、第二側壁部 22 の左側縁に折り線 221 を介して第二天板部 23 が連続し、第二天板部 23 の左側縁に折り線 231 を介して第二側壁部 22 が連続し、第二側壁部 22 の左側に第二糊代部 24 が連続している。

[0022] この第一ブランクシート B1 を、図 5 (a) に示すように、各折り線 (111、121、131、221、231) で全て谷折りし、そして、図 5 (b) に示すように、第一糊代部 14 を左側の第一側壁部 12 に貼り合せるとともに、第二糊代部 24 を右側の第一側壁部 12 に貼り合せることによって、第一收容部 1 及び第二收容部 2 が上下二段に組み立てられる。

[0023] 翼片部 3 は、図 4 に示す第二ブランクシート B2 を折曲げ加工して組み立てられる。第二ブランクシート B2 は、その中央に上記第一ブランクシート B1 の底板部 11 と同形状の連結部 31 を備え、この連結部 31 の相対向する左右側縁に折り線 311 を介して左右一对の翼片部 3・3 が連続している。

[0024] この第二ブランクシート B2 を、図 5 (a) に示すように、その連結部 31 で第一ブランクシート B1 の底板部 11 と貼り合わせて一体化し、図 5 (b) に示すように、左右の翼片部 3 を折り線 311 で谷折りすることによって、第一收容部 1 の左右側縁の下部に折り線 311 を介して翼片部 3・3 が

設けられる。

[0025] このように本実施形態の多段式包装容器 10 は、板紙から成るブランクシートの折曲げ加工により組み立てられ、第一収容部 1 及び第二収容部 2 の各開口部が長形状を成しているため、多段式包装容器 10 全体をシート状に折り畳むことができる。したがって、多段式包装容器 10 を多数枚、折り畳んだ状態で積層することができ、嵩張ることなく保管し、運搬することができる。

[0026] 次に、図 6～図 8 を参照しながら本実施形態の多段式包装容器 10 の使用手順について説明する。

[0027] まず、シート状に折り畳まれた多段式包装容器 10 を準備し、その第一収容部 1 及び第二収容部 2 を起立させ、図 6 に示すように、第一収容部 1 の保持孔 4 内へ、例えば蓋付き飲料カップ等の縦置き型の食品容器 F 1 を上方から挿入することにより、食品容器 F 1 を保持孔 4 で保持させる。この食品容器 F 1 の挿入により第一収容部 1 及び第二収容部 2 の起立状態を維持することができる。そして、これら第一収容部 1 及び第二収容部 2 を起立させたまま、第一収容部 1 内へ、例えば窓付き食品ボックス等の平置き型の食品容器 F 2 を後側開口部 15 R 側から挿入するとともに、第二収容部 2 内へ、他の平置き型の食品容器 F 3 を後側開口部 25 R 側から挿入することにより、第一収容部 1 及び第二収容部 2 内にそれぞれ食品容器 F 2、F 3 を収容させる。

[0028] 次に、図 7 に示すように、第一収容部 1 の抜止部 5 の第一逆折片 52 を後側開口部 15 R の内側へ逆折りすることにより、第一収容部 1 内に収容した食品容器 F 2 の抜け落ちを防ぐとともに、第二収容部 2 の抜止部 5 の第二逆折片 54 を後側開口部 25 R の内側へ逆折りすることにより、第二収容部 2 内に収容した食品容器 F 3 の抜け落ちを防ぐ。

[0029] なお、必要に応じて、第一収容部 1 の第一天板部 13 の保持切れ目 43 に例えばストロー等の飲食用具 G 1 を差込み固定することができ、また、第二収容部 2 の第二天板部 23 の保持切れ目 26 に例えばスプーン等の飲食用具

G 2を差込み固定することができる。

- [0030] そして、図8に示すように、左右一对の翼片部3・3を上方へ立ち上げ、一方の翼片部3の折曲片34を他方の翼片部3の開口部に通して左右の持ち手32をまとめることにより、複数の食品容器(F 1、F 2、F 3)を第一收容部1及び第二收容部2内に收容し、安定に手提げ運搬することが可能となる。必要に応じて、各翼片部3の切れ目35を利用して、リボン等の装飾品を取り付けてもよい。
- [0031] このように本実施形態の多段式包装容器10によれば、上下二段に形成された第一收容部1及び第二收容部2内にそれぞれ平置き型の食品容器(F 2、F 3)を收容することができ、さらに下段の第一收容部1を上段の第二收容部2よりも前方へ突出させ、その突出部分に設けた保持孔4により縦置き型の食品容器F 1を保持することができるので、紙コップ等の縦置き型の食品容器のみならず、弁当箱等の平置き型の食品容器も同時に複数個、安定かつコンパクトに保持し運搬することができる。
- [0032] しかも、第一收容部1の突出部分に設けた保持孔4で保持した食品容器F 1によって、第一收容部1及び第二收容部2内にそれぞれ收容した食品容器(F 2、F 3)が前方へ抜け落ちるのを防ぐことができ、そして、第一收容部1及び第二收容部2の後側開口部に設けた抜止部5によって、各食品容器(F 2、F 3)が後方へ抜け落ちるのを防ぐことができる。したがって、第一收容部1及び第二收容部2の前後の開口部を、例えば複数のフラップ等で封止する必要がなく、構造簡素で安価な包装容器を提供することができ、また、第一收容部1及び第二收容部2における食品容器の挿入・取出し操作を容易に行うことができる。
- [0033] さらに、本実施形態の多段式包装容器10によれば、抜止部5が、第一收容部1及び第二收容部2の後側開口部にそれぞれ形成された第一逆折片52及び第一逆折片54により構成されているので、食品容器の抜止め操作、及びその解除操作をワンタッチで行うことができ、取扱い性をより向上させることができる。

- [0034] 以上、本実施形態の多段式包装容器 10 について説明したが、本発明は他の実施形態でも実施することができる。
- [0035] 例えば、図 9 及び図 10 に示す多段式包装容器 20 のように、食品容器の抜け落ちを防ぐ抜止部 6 を、底板部 11 の後端縁に折り線を介して設けられた舌片 61 と、第二天板部 23 に設けられ、舌片 61 の先端側を差込み可能な差込切れ目 62 とから構成してもよい。この多段式包装容器 20 によれば、第一収容部 1 及び第二収容部 2 内にそれぞれ収容した食品容器（F 2、F 3）の抜け落ちを同時に防ぐことが可能となる。
- [0036] また、上記実施形態では、第一収容部 1 及び第二収容部 2 を上下二段に形成しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、例えば、第一収容部 1 及び／又は第二収容部 2 内に棚板部を設けたり、上段の第二収容部 2 上に更に他の筒状の収容部を設けたりすることによって、食品容器を多段式に収容できるようにしてもよい。
- [0037] また、上記実施形態では、第一収容部 1 の突出部分に設けた保持孔 4 に、縦置き型の食品容器 F 1 の例として、蓋付き飲料カップ等の飲料容器を保持させているが、例えば、上方に開口部を備え、複数の棒状食品を立てて収容する食品容器や、平置き型の食品容器を保持孔 4 に保持させるようにしてもよい。保持孔 4 内に挿入された各種の食品容器が第一天板部 13 の上方及び下方へ突出していれば、第一収容部 1 及び第二収容部 2 内にそれぞれ収容した食品容器の後方への抜け落ちを防ぐことができる。保持すべき食品容器の種類、形状、大きさ等に応じて、保持孔 4 の形状、大きさ等を適宜、設計変更することができる。
- [0038] また、上記実施形態では、第一収容部 1 の前側開口部 15 F 及び後側開口部 15 R の開口幅寸法を、第二収容部 2 の前側開口部 25 F 及び後側開口部 25 R の開口幅寸法と同じにしているが、例えば、第一収容部 1 の開口幅寸法を第二収容部 2 の開口幅寸法よりも大きくしたり、第二収容部 2 の開口幅寸法を第一収容部 1 の開口幅寸法よりも大きくしたりしてもよい。これら第一収容部 1 及び第二収容部 2 内に収容する食品容器の種類、形状、大きさ等

に応じて種々の設計変更が可能である。

[0039] 本発明は、その他、その趣旨を逸脱しない範囲内で、当業者の知識に基づいて種々の改良、修正、変形を加えた態様で実施し得るものである。また、同一の作用又は効果が生じる範囲内でいずれかの発明特定事項を他の技術に置換した形態で実施してもよく、また、一体に構成されている発明特定事項を複数の部材から構成したり、複数の部材から構成されている発明特定事項を一体に構成した形態で実施してもよい。

符号の説明

- [0040] 10、20 多段式包装容器
- 1 第一収容部
 - 11 底板部
 - 12 第一側壁部
 - 13 第一天板部
 - 15 F (第一収容部の) 前側開口部
 - 15 R (第一収容部の) 後側開口部
 - 2 第二収容部
 - 22 第二側壁部
 - 23 第二天板部
 - 25 F (第二収容部の) 前側開口部
 - 25 R (第二収容部の) 後側開口部
 - 3 翼片部
 - 32 持ち手
 - 4 保持孔
 - 5、6 抜止部
 - 51 第一切込み
 - 52 第一逆折片
 - 53 第二切込み
 - 54 第二逆折片

6 1 舌片

6 2 差込切れ目

F 1、F 2、F 3 食品容器

請求の範囲

[請求項1]

複数の食品容器を収容し運搬するための多段式包装容器であって、
矩形状の底板部と、前記底板部の相対向する左右側縁に折り線を介して設けられた左右一对の第一側壁部と、前記各第一側壁部の上縁間に折り線を介して架け渡された矩形状の第一天板部とから成り、前記底板部の前後方向に前側開口部及び後側開口部を有する筒状の第一収容部と、

前記第一収容部上に設けられ、前記第一天板部と、前記第一天板部に折り線を介して設けられた左右一对の第二側壁部と、前記各第二側壁部の上縁間に折り線を介して架け渡された矩形状の第二天板部とから成り、前記底板部の前後方向に前側開口部及び後側開口部を有する筒状の第二収容部と、

前記第一収容部の左右側縁に折り線を介して設けられ、先端側に持ち手が形成された左右一对の翼片部と、
を備え、

前記第一収容部の前側開口部が前記第二収容部の前側開口部よりも前方へ突出し、前記第一収容部における前記第一天板部の突出部分に、食品容器を挿入保持可能な保持孔が設けられ、

前記第一収容部の後側開口部及び前記第二収容部の後側開口部に、前記第一収容部及び前記第二収容部内にそれぞれ収容した他の食品容器の抜け落ちを防ぐ抜止部が設けられていることを特徴とした多段式包装容器。

[請求項2]

前記抜止部が、

前記第一収容部の後側開口部において、前記底板部及び前記第一側壁部に前記折り線を跨いで設けられた第一切込みにより形成された第一逆折片と、

前記第二収容部の後側開口部において、前記第二天板部及び前記第二側壁部に前記折り線を跨いで設けられた第二切込みにより形成され

た第二逆折片と、
から構成されており、

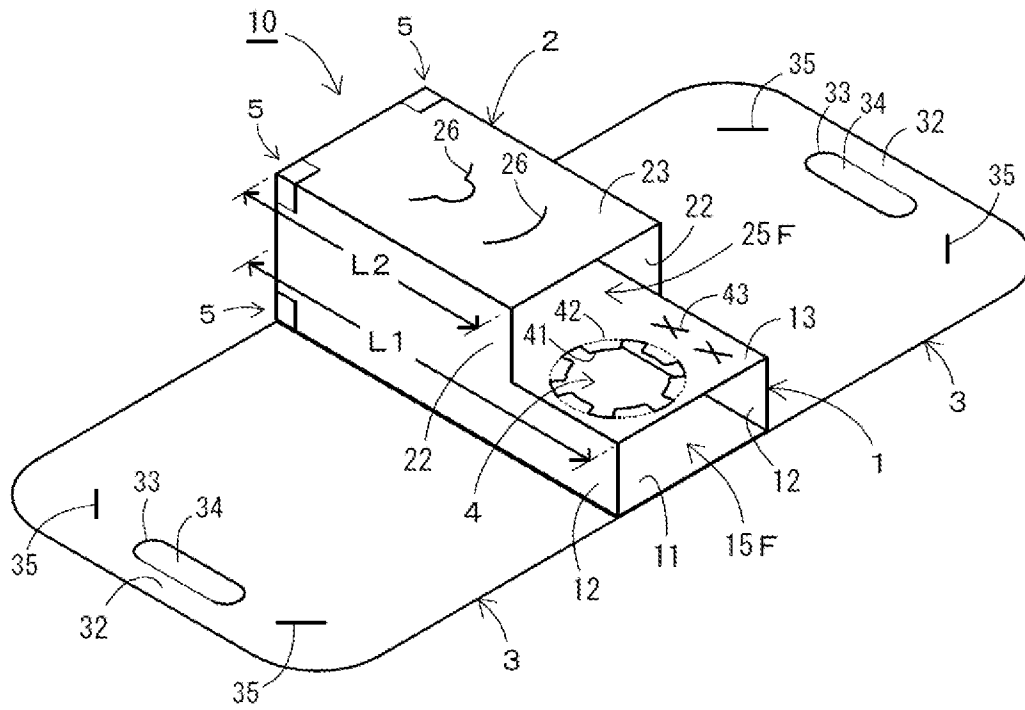
前記第一逆折片を前記第一収容部の後側開口部の内側へ逆折りすることにより前記第一収容部内に収容した食品容器の抜け落ちを防ぎ、前記第二逆折片を前記第二収容部の後側開口部の内側へ逆折りすることにより前記第二収容部内に収容した食品容器の抜け落ちを防ぐことを特徴とした請求項 1 に記載の多段式包装容器。

[請求項3]

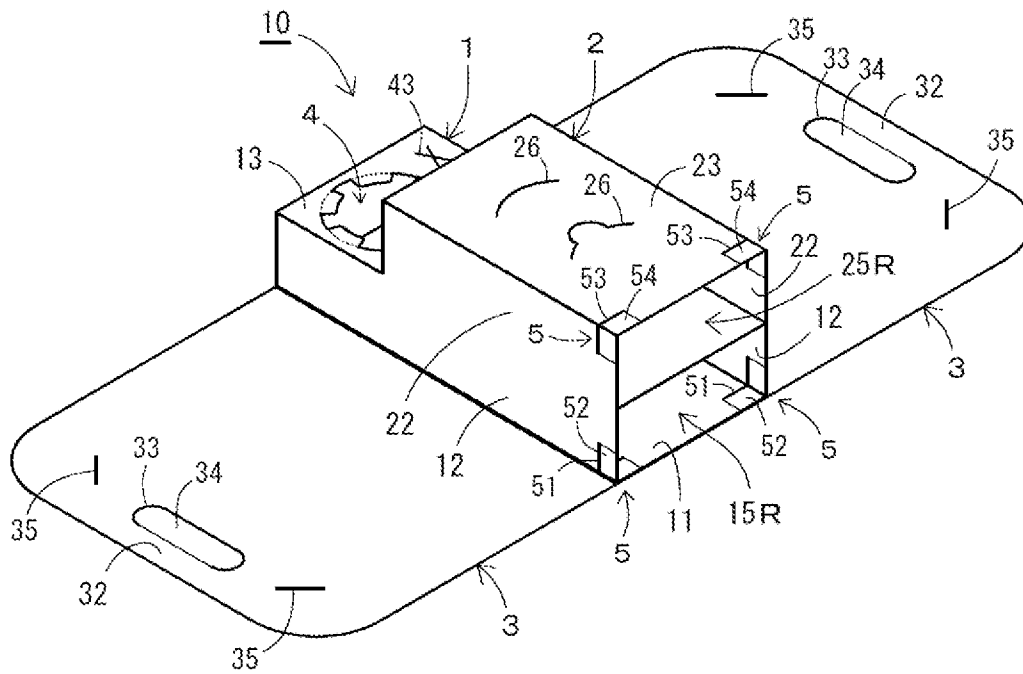
前記抜止部が、
前記底板部の後端縁に折り線を介して設けられた舌片と、
前記第二天板部に設けられ、前記舌片の先端側を差込み可能な差込切れ目と、
から構成されており、

前記舌片の先端側を前記差込切れ目に差し込むことにより前記第一収容部及び前記第二収容部内にそれぞれ収容した食品容器の抜け落ちを防ぐことを特徴とした請求項 1 に記載の多段式包装容器。

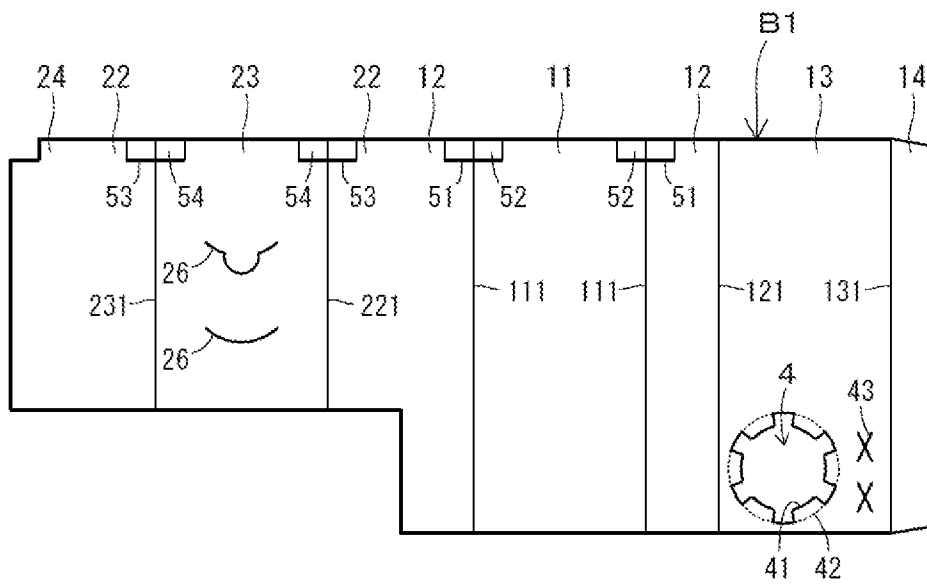
[図1]



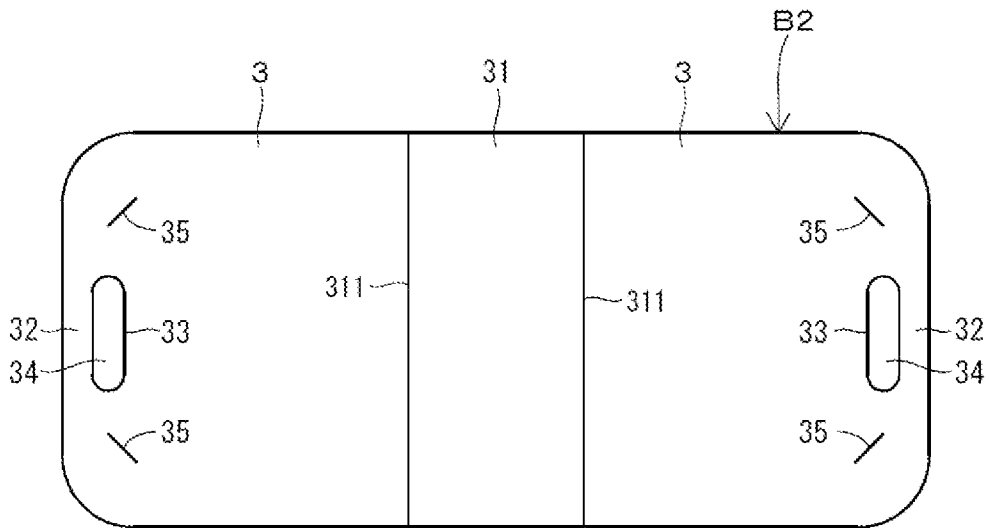
[図2]



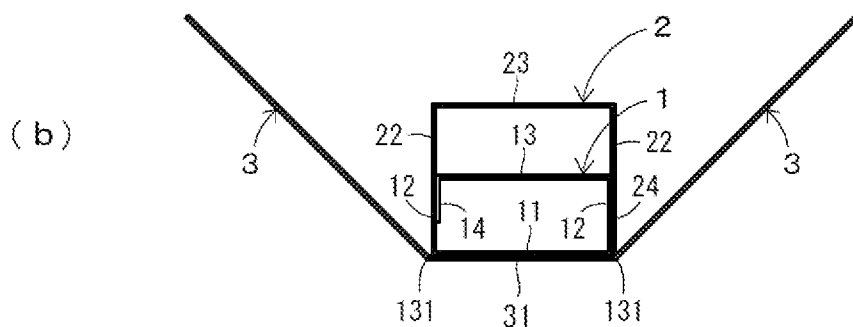
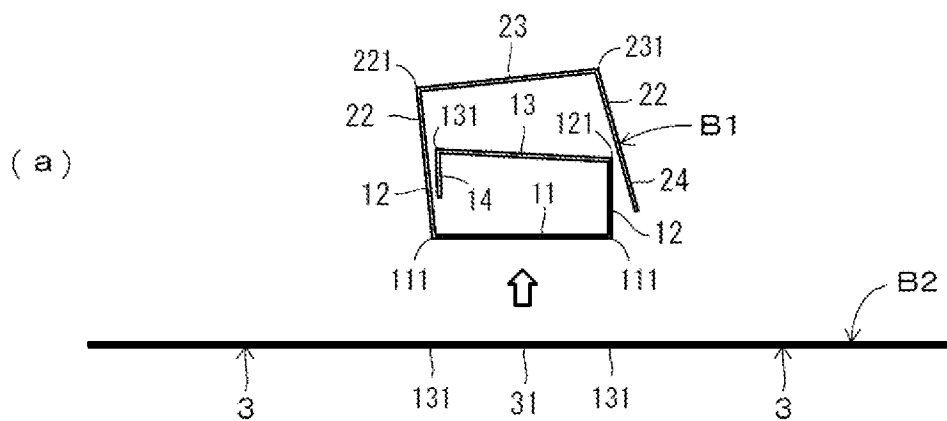
[図3]



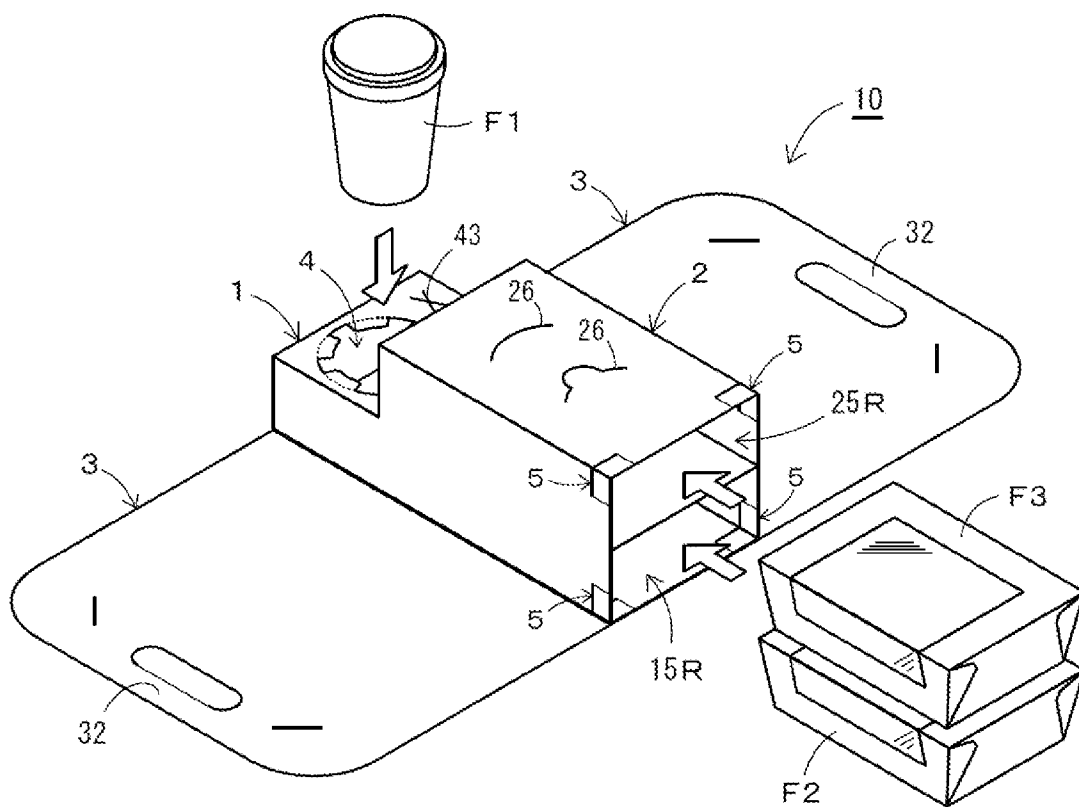
[図4]



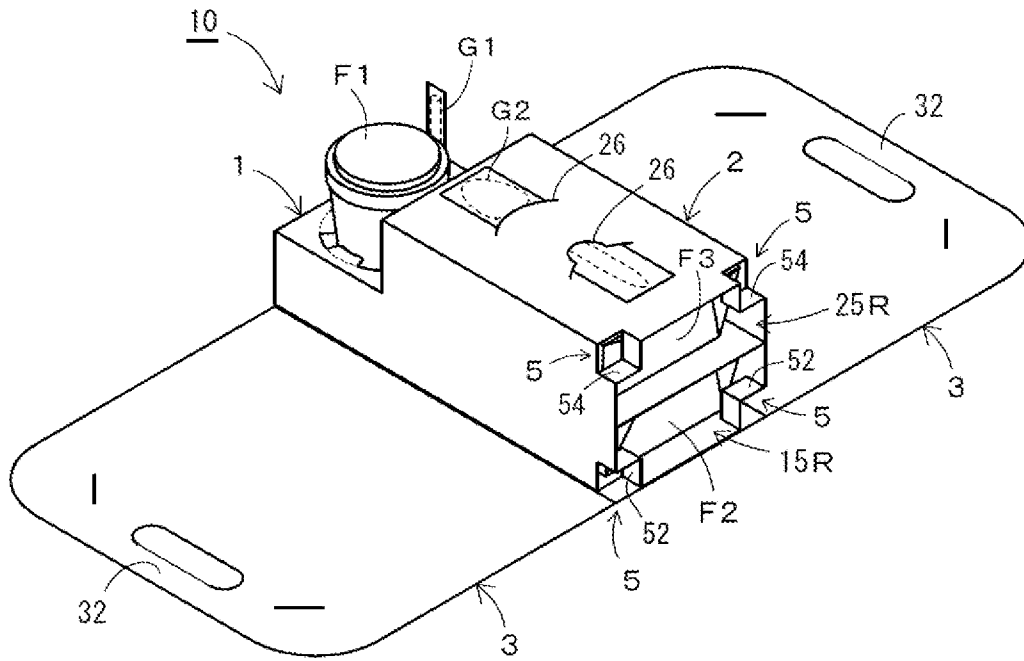
[図5]



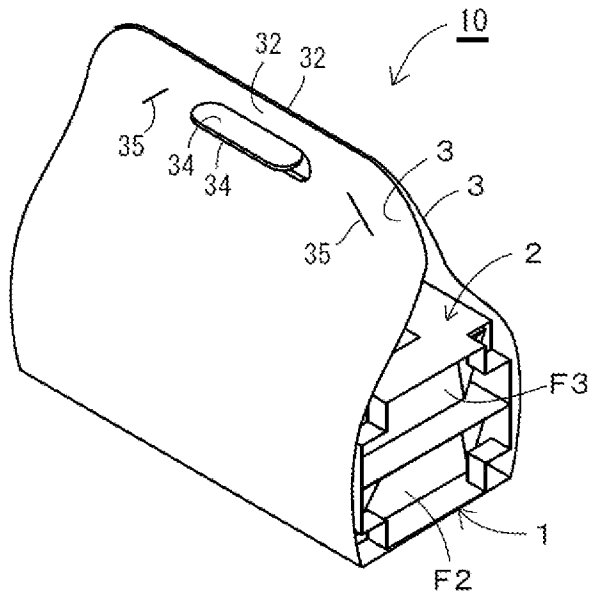
[図6]



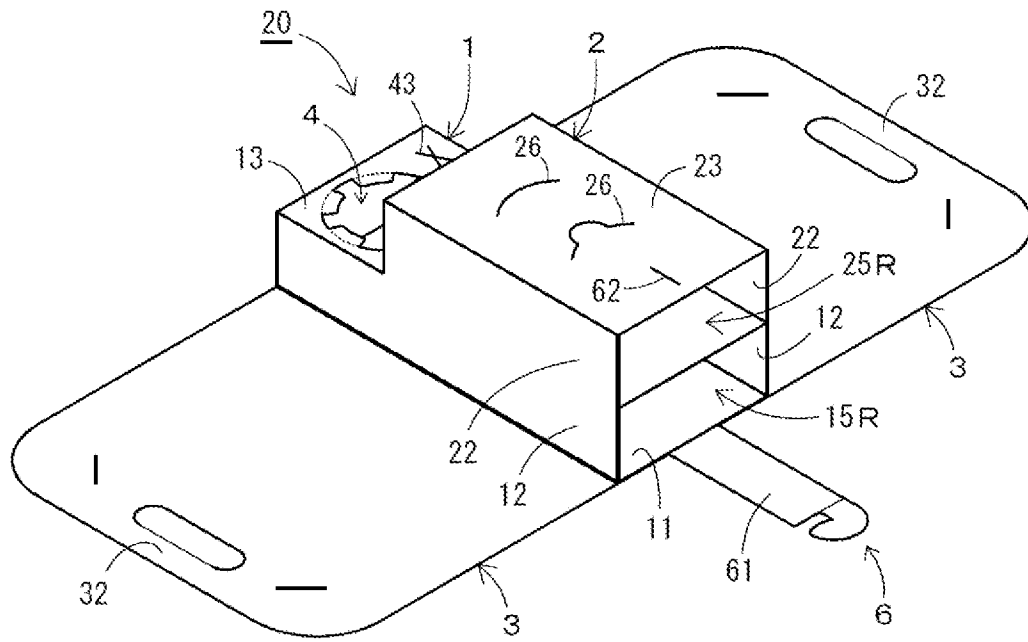
[図7]



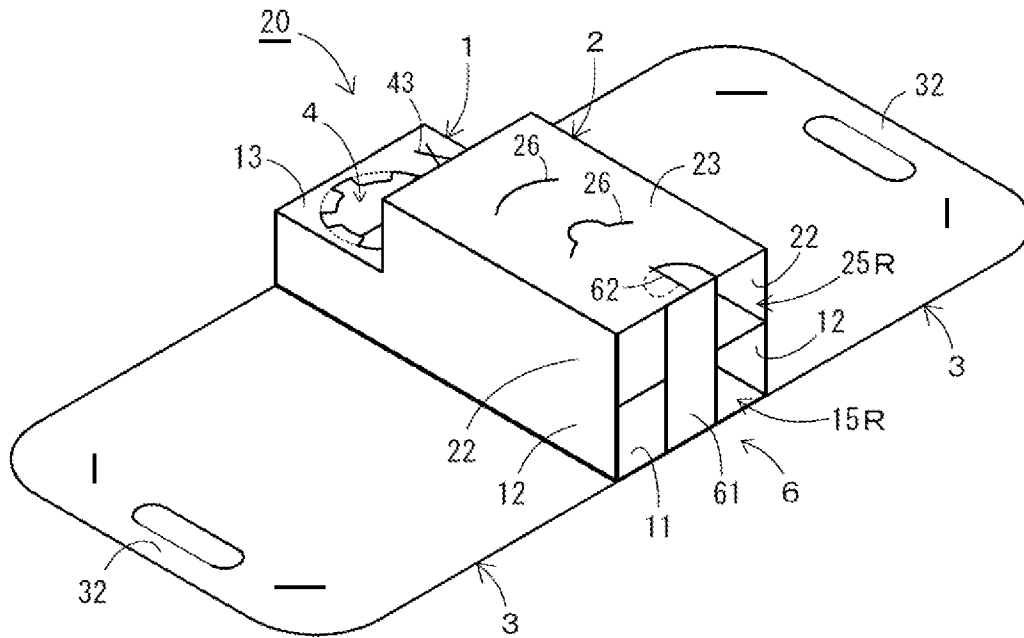
[図8]



[図9]



[図10]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2020/008554

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int. Cl. B65D67/02 (2006.01) i, B65D5/50 (2006.01) i
 FI: B65D67/02, B65D5/50 101B

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int. Cl. B65D67/02, B65D5/50

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan 1922-1996
 Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2020
 Registered utility model specifications of Japan 1996-2020
 Published registered utility model applications of Japan 1994-2020

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

| Category* | Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages | Relevant to claim No. |
|-----------|--|-----------------------|
| Y | Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 107436/1971 (Laid-open No. 062226/1973) (OOKURA SUISAN KK) 08 August 1973, page 3, line 18 to page 8, line 3, fig. 1, 2 | 1-3 |
| Y | US 4889239 A (SANDISH, R. George) 26 December 1989, column 2, line 44 to column 5, line 53, fig. 1, 2 | 1-3 |
| Y | US 2017/0355501 A1 (FURIO, Sante) 14 December 2017, paragraphs [0036]-[0044], fig. 1-4 | 3 |

Further documents are listed in the continuation of Box C.

See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

“E” earlier application or patent but published on or after the international filing date

“L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

“O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

“P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

“X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

“Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

“&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
 18.03.2020

Date of mailing of the international search report
 31.03.2020

Name and mailing address of the ISA/
 Japan Patent Office
 3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
 Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

 Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.
PCT/JP2020/008554

| Patent Documents referred to in the Report | Publication Date | Patent Family | Publication Date |
|--|------------------|---|------------------|
| JP 48-062226 U1 | 08.08.1973 | (Family: none) | |
| US 4889239 A | 26.12.1989 | (Family: none) | |
| US 2017/0355501 A1 | 14.12.2017 | US 2019/0202617 A1 paragraphs [0037]-[0043], fig. 1-4 | |

| | | |
|--|---|--------------------------|
| A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） B65D 67/02(2006.01)i; B65D 5/50(2006.01)i FI: B65D67/02; B65D5/50 101B | | |
| B. 調査を行った分野 調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） B65D67/02; B65D5/50 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1922-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-2020年 日本国実用新案登録公報 1996-2020年 日本国登録実用新案公報 1994-2020年 | | |
| 国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語） | | |
| C. 関連すると認められる文献 | | |
| 引用文献の カテゴリー* | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示 | 関連する 請求項の番号 |
| Y | 日本国実用新案登録出願46-107436号(日本国実用新案登録出願公開48-062226号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム（大倉水産株式会社）08.08.1973（1973-08-08）第3ページ第18行-第8ページ第3行、第1-2図 | 1-3 |
| Y | US 4889239 A (SANDISH, R. George) 26.12.1989 (1989-12-26) 第2欄第44行-第5欄第53行、第1-2図 | 1-3 |
| Y | US 2017/0355501 A1 (FURIO, Sante) 14.12.2017 (2017-12-14) 段落 [0036] - [0044] , 第1-4図 | 3 |
| <input type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input checked="" type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。 | | |
| * 引用文献のカテゴリー | “T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの “A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの “E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの “L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの “O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 “&” 同一パテントファミリー文献 “P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献 | |
| 国際調査を完了した日 | 18.03.2020 | 国際調査報告の発送日 31.03.2020 |
| 名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 | 権限のある職員（特許庁審査官） 加藤 信秀 3N 3745 電話番号 03-3581-1101 内線 3359 | |

国際調査報告
特許ファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2020/008554

| 引用文献 | 公表日 | 特許ファミリー文献 | 公表日 |
|--------------------|------------|---|-----|
| JP 48-062226 U1 | 08.08.1973 | (ファミリーなし) | |
| US 4889239 A | 26.12.1989 | (ファミリーなし) | |
| US 2017/0355501 A1 | 14.12.2017 | US 2019/0202617 A1 段落 [0037] - [0043], 第1-4図 | |